

授業特別協力者(ゲストスピーカー)報告書

テーマ : カンボジアの貧困女性向け教育・授産施設の工房を訪れ、社会問題解決にあたり必要とされる異文化コミュニケーション能力の理解を深める

授業特別協力者名 : 橋本 沙耶加 氏 (SALASUSU Tour Department Manager)

実施日時 : 2022 年 10 月 13 日 (木) 5 時限

担当教員名 : 山本 明

授業科目名 : グローバル・プロフェッショナル・プログラム B2

履修者数 : 8 名

実施結果

<事前学習>

カンボジアの貧困女性を対象とした授産施設であり、また現地適合化した教育プログラムも開発した特定非営利活動法人 SALASUSU へのヒアリング調査にあたり、カンボジアにおける当該問題の歴史的経緯と異文化コミュニケーションに関する問題の学習を行った。

前者については、2002 年、カンボジアにおける子供の人身売買問題の解決を目指して発足した「かものはしプロジェクト」から、現在の SALASUSU へと到る経緯を学習し、更に貧困女性の問題を STEM LIBRARY (STEAM ライブラリー - 未来の教室 (steam-library.go.jp)) 等にアップされた事例動画を複数学習することで、背景を含め理解を深めた。後者については SALASUSU 代表者の青木健太氏の動画等を用い、カルチャーギャップ等についての具体的事例を学習した。

その上で各自質問を作成し、事前に SALASUSU へ送り、回答の準備を依頼した。

<当日の授業実践報告>

第一に全体のコーディネーターである橋本氏による包括的説明、及び日本人スタッフによる現地の状況や SALASUSU の概要説明がなされた。第二に zoom を用い、現地日本人スタッフによるカンボジアの授産施設の工房内部の案内、及び女性たちが製品を制作する過程に関する詳細な説明がなされた。第三に SALASUSU 出身であり、現在は生産管理まで尽力しているサムナム氏等に対し、質疑応答を行った。更に橋本氏からは事前にお送りした質問への回答のみならず、カンボジアのメンバーからの回答に対しても補足説明がなされた。

結果、かものはしプロジェクトから起算すると 20 年にわたり、自立収益型事業を継続し、コロナ禍での危機も様々なアイデアで乗り越えられたロールモデルを提示していただいた。と同時、カルチャーギャップを越えて共創を継続させるための、「視線をあわせる」方法を学習することができた。

尚、当日の授業内容は、今後公開される録画を通じ確認が可能となる。